

環境学習・啓発業務の可能性を追求 「知多南部広域環境センター ゆめくりん」

2022（令和4）年3月竣工の知多南部広域環境センター「ゆめくりん」は、半田市、常滑市、南知多町、美浜町および武豊町の可燃ごみ、不燃・粗大ごみを処理する施設です。

ゆめくりんには、安全・安心なごみ処理のほか、地域の皆さまとともにごみ減量や環境にやさしい暮らしを考え広げていくという重要な役割があります。

ゆめくりんの環境学習・啓発の取り組みについてご紹介します。

運営体制と業務内容

ゆめくりんの環境学習・啓発業務の内容と実施体制は次のとおりです。

【事業主体】

知多南部広域環境組合

【運営事業者（SPC）】

グリーンパーク知多南部（株）

- ・見学案内担当：一般・小学生の工場見学案内。ごみ処理のしくみや環境問題を伝える。
- ・環境インタープリター：環境プログラム、イベントの開催、展示の案内を通じて環境問題を伝える。

多様な目的に応える見学案内

ゆめくりんには、ごみ処理のしくみをわかりやすく学べる見学コースが整備されています。

見学窓からは、ごみ収集車の動きや、迫力あるごみの攪拌など、実際のごみ処理の様子を見ることができ、小学生はもとより一般の見学者も時間を忘れて見入ってしまうこともめずらしくありません。

実際のごみ処理の設備を見るだけでなく、人の暮らしとごみの関係について、歴史を振り返る環境展示や環境問題を学ぶパネル等も設置されており、持続可能

な社会を目指す学びにも対応できるようになっています。

子どもたちにとってごみ処理を学ぶことは、人の暮らしを支えるごみ施設の重要性や、4R行動の実践にもつながっています。

一方、一般の見学では、分別指導員や関連企業など、ごみ処理への理解を深めたい方、レクリエーションを兼ねた見学、あるいは近隣住民の方の新しい公共施設への興味からなど、多様な目的で見学者が訪れます。ガイドを務めるのは専属の案内担当で、日々、多様な要望に応えながら、案内を行なっています。

興味や関心を深める設備

見学コースには、見学者の理解を深める見学用設備が設置されています。見学窓から見えない場所や、言葉で説明しにくいところは、見学窓横のモニターで流すショート映像（写真1）で学ぶことができます。映像のほか、子どもたちが楽しく学べるクイズを用意しています。設問は、だれでも回答できる内容で、子どもたち全員が元気に手を挙げて、「わかった！」と声をあげる様子は案内者の励みにもなっています。

見学者は、「見る」、「聞く」に加え、「参加する」、「体を動かす」、「景色を眺める」などにより、集中力を持続することができます。



写真1 理解を深めるショート映像

地域と連携した環境プログラムとイベント

ゆめくりんでは、毎月環境プログラムを開催しています。

廃材を活用した工作や、地域の食材を活用したクッキングは親子で楽しめる人気のプログラムです。講師には地域で活動する方を招き、知多南部地域ならではのプログラム開催に努めています。

海に囲まれた地域という特徴から、地元の海上保安署とのコラボで海の環境をテーマにプログラムも実施しました（写真2）。ごみ処理施設という新たな公共の場が創出されたことで、さまざまな可能性を感じていただく機会にも恵まれました。



写真2 海上保安署による水質汚濁実験

地域連携による環境課題への取り組み

ゆめくりんでは環境プログラムのほか、毎年1回、環境をテーマにしたイベント「ゆめくりん・えこふえす」を開催することとしています。

第1回開催は、2022年9月でした。主な内容は、地域でエコな取り組みや活動、販売を行う団体、企業、個人の出店、フリーマーケット、展示、工場見学ツアー、演奏会など盛りだくさんで、親子、グループ、お一人でも、終日楽しめるイベントを目指しました。中でも地域の食材による飲食コーナーは終日賑わいました（写真3）。

地域で活動する団体等の協力を得ることで、親しみやすい内容となり、多くの集客につながったと感じています。



写真3 地元の海の食材を使ったお弁当

今後の可能性

安全かつ適正なごみ処理のためには地域住民の皆さまとの連携が重要です。さらに持続可能な地域づくりを目指していくには、多様な主体と連携し、環境問題を自分たちの問題としてとらえることが重要です。ゆめくりんは、ようやく1年を迎えようとする新しい施設ですが、今後の長期に渡る運営のなかで、地域とのつながりを深め、地域の環境拠点としての可能性を追求した運営を目指していきます。